

文章としてのまとまりを持たせるためには、時間の流れに矛盾がないように文を続ける必要があります。また、ある時点での出来事を言っているのか、ある時間幅における状態のことを言っているのかをはっきりさせることも大切です。特に動詞の用法がポイントです。

A 動詞の現在形の用法

用法	例	動詞の種類
未来	わたしは来年、高校を卒業する。	動きを表す動詞
現在	彼女はトラックの運転ができる。	状態を表す動詞
	おなかが痛む。	感覚を表す動詞
時間に無関係	選手としてしっかり戦うことを誓います。	行動の宣言を表す動詞
時間に無関係	太陽は東から上って西に沈む。	

* 形容詞文・名詞文の現在形は現在のこと・時間に無関係なことを表す。

B 動詞の過去形の用法

用法	例
過去	先週、アメリカから友達が来た。
現在につながる過去	わたしはさつきからずっとここにいた。
完了の結果	わたしは最近太った。
未来完了	あした集合時間に遅れた人は、自分で電車で来てください。
形状・状態	あの丸い形をした建物は何ですか。(名詞を説明する文の中で使う)
生理状態	ああ、おなかですいた。

* 形容詞文・名詞文の過去形は過去のことを表す。

C 「～ている」の用法

用法	例
動作・事態の継続	日本では子供の数が減っている。
結果の存続	電気が消えている。



形状・様子	この棒は先が曲がっている。
完了	20年後、わたしは社長になっているだろう。 3時に会場に着いた。もうみんな来ていた。
経験・記録	彼は10年前に同じ病気で入院している。

D 複文の時制

◆ 複文は次のような構造になっています。(文の中に別の文が入り込んでいます。)

わたしは「子供が熱を出した」ときは、仕事を休む。
 「わたしは仕事を休む」：主の文
 「子供が熱を出した」：中の文

◆ 「～とき・～場合・～際」などを使った複文や、名詞を説明する文を使った複文では、中の文の時制は話している時点に関係なく、主の文との時間的前後関係で決まります。(中の文に動きを表す動詞を使った場合)

a) 中の文のことが主の文のときより時間的に前のとき、中の文は過去形

例・来月「ハワイへ行った」とき、ハワイにいる叔父を訪ねる予定だ。

行った → 訪ねる
(その後で)

- ・「商品を買って買った」場合、店に返品することができる。
- ・以前は、「この大学に入学した」人は、全員寮に入った。

b) 中の文のことが主の文のときより時間的に後のとき、中の文は現在形

例・子供のころ、「寝る」とき、いつも母が本を読んでくれた。

読んでくれた → 寝る
(その後で)

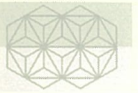
- ・「アメリカへ出発する」際、成田空港で写真を撮った。
- ・あした「国の母に送る」誕生日祝いを買います。

c) 主の文のときと中の文のことが同時のとき、中の文は現在形(または、主の文と同じ時制)

例・暑い日に外で仕事をする人は、たくさん汗をかく。

仕事をする ↔ 汗をかく
(同時)

- ・「わたしがパソコンで仕事をしている/していた」間、子供たちはテレビを見ていた。
- ・「このマンションを買う/買った」とき、親のお金も使った。



練習1 ()の中の動詞を適当な形・適当な時制に変えなさい。

- 1 来週ここで留学説明会を(①行→)。(②来→)人に資料を渡すのがわたしの役目である。
- 2 夜遅くその町に着いた。すでに11時を(①過→)。泊まることに(②する→)友人宅には行かず、安い宿に(③泊→)。
- 3 その夜、わたしは12時過ぎまで(①起→)。雨が(②降→)。12時半ごろ、建物が強く揺れるのを(③感→)。
- 4 今朝、踏み切りで事故が(①あ→)らしく、電車が20分遅れた。新幹線のホームに着いたとき、(②乗→)はずだった新幹線はもう(③出→)。
- 5 家に(①帰→)のは12時ごろだったと思う。子供たちはもう(②寝→)が、妻はまだ本を(③読→)。テレビをつけると、学生のころ(④見→)映画を(⑤や→)。面白くて、途中でやめられず、結局明け方まで(⑥寝→)。

練習2 ()の中の動詞を適当な形・適当な時制に変えなさい。

- 1 わたしは小さいころから動物が好きだった。当時(①飼→)犬や鳥はもちろん、公園のあひるや捨て猫も(②見→)だけで飽きなかった。興味の対象は小動物だけではなかった。(③荒→)我が家の庭には、名前も知らない草木がたくさん(④生→)、そこにいろいろな虫が集まってきた。虫の観察も楽しく、時間を忘れた。その日もわたしは庭に出て、ありの観察をしていた。一生懸命食べ物運ぶ姿が面白くて、かなり長い間(⑤見→)ような気がする。ふとそばに人の気配を感じて顔を上げると、そこに母が(⑥立→)。母は(⑦困→)ような顔をしていた。
- 2 国土交通省は地球温暖化対策として、自転車に期待を(①寄→)。今まで車を(②使→)人が自転車を利用するようになれば、二酸化炭素が出るのを大きく減らすことが(③でき→)。だが、現在、自転車利用者のための対策が(④遅→)。自転車事故なども(⑤増→)ことから、国土交通省はようやく自転車道路の整備に(⑥乗→)。

まとめ つぎの文章を読んで、文章全体の内容を考えて、1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

ここにある小説は、作者である「わたし」の手を離れて久しいものばかりです。
1 その瞬間に、すでに小説は作者にとって、「自分から離れていってしまったもの」になっています。
 作者から 2 小説は、読者の元へと、ゆっくり運ばれてゆきます。たとえば大きな客船に乗って、堂々と海の波を割りひらきながら読者の皆さんのところへと運ばれる本もあるでしょう。ひっそりと夜の道を 3 しなやかな動物の背に乗って、選ばれた読者にだけ運ばれる本もあるにちがいない。(略)
 どんなふうにも運ばれた小説も、読者にとっては大切なものです。もしかしたら、作者にとってよりも、読者にとっての方が、より大切なものかもしれない。
 わたし自身、自分の作ったものはさきほど 4 ようにどんどん忘れていってしまうけれど、大好きで読みついできたよその作者の小説についてならば、どの頁にどんな言葉があつて、登場人物の誰がどんな服をどんな場面で着ていて、どんな時に悲しんでどんな時に喜んだかということ、つぶさに 5 のです。
 小説というものは、書かれることも大事だけれど、読んでもらうことも、きつともものすごく大事なのです。

(川上弘美『はじめての文学 川上弘美』文藝春秋 刊)

- 1
- | | |
|------------|------------|
| 1 書き上がる | 2 書き上がった |
| 3 書き上がっている | 4 書き上がっていた |
- 2
- | | | | |
|-------|-------|---------|---------|
| 1 離れる | 2 離れた | 3 離れている | 4 離れていた |
|-------|-------|---------|---------|
- 3
- | | | | |
|------|-------|---------|--------|
| 1 走る | 2 走った | 3 走りながら | 4 走るとき |
|------|-------|---------|--------|
- 4
- | | | | |
|------|-------|---------|---------|
| 1 書く | 2 書いた | 3 書いてきた | 4 書いていた |
|------|-------|---------|---------|
- 5
- | | | | |
|-------|-------|---------|---------|
| 1 覚える | 2 覚えた | 3 覚えている | 4 覚えていた |
|-------|-------|---------|---------|